

児童の思考過程を核にした授業の設計と評価

著者	矢ヶ崎 孝雄, 水越 敏行, 社会科教育研究グループ, 仲谷 外志子, 野田 大介, 花外 健男, 細川 紀彦, 村本 外志雄, 屋敷 道明, 新保 賢良
雑誌名	教育工学研究 = Studies in educational technology
巻	2
ページ	1-27
発行年	1977-03-30
URL	http://hdl.handle.net/2297/24916

児童の思考過程を核にした授業の設計と評価

矢ヶ崎孝雄*・水越敏行**・社会科教育研究グループ***

1 研究のねらい

従来の授業研究は児童を相手にしながらも、どちらかといえば指導者の立場に立って目標が設定され、授業が立案、構成されてきた。また評価もその範囲において試みられてきたことも事実である。その結果、どうしても一部の子どもについては焦点はあてられるが、見逃される子どもも出てきたことも否めない。

そこで我々研究グループは、次の二点に研究のねらいをおき、この欠点をいくらかでもおぎなおうと試みたのがこの記録である。第一点は子どもの側に立った授業の設計、評価のあり方の望ましい方向をさぐることである。そのためには一人ひとりの子どもが学習に積極的に立ち向かうために必要な教材と子どもの意識の関係を重視し、その思考過程の変容を明らかにしていこうとしたことである。

第二点は、学習の主体である児童を少人数(2～3人)のグループに分け、マイクロティーチングによる授業試行を試みたことである。児童のつまづき、認識の度合を明確にすることが前に述べた欠点をおぎなう基礎的手段であると考えたからである。

なお一般に学習の中では、主として認知の領域(特に知識・技能)の学習に重点がおかれ、情意的領域(特に個性化)の育成、評価が軽視されるくらいがみられるので、この点についてもより重視することにした。本年度は、小学校6年の歴史単元の中から、従来あまり実践例の

見られなかった「南蛮貿易と日本町」を取り上げ、この中で実証することにした。

2 研究の手順

(1) 授業の設計

a 目標分析と教材観の確立

我々は前にキーワードの抽出によるマトリックス法で歴史単元の目標の一般化に近づくための手法を実践した****。しかし、この方法が最良のものと果たしていえるかの反省に立つと共に、より普遍化でき、かつできるだけ一般化される目標設定の方法として、教科書の比較による内容の洗い出しと、その要素のとり出し法を今回はとった。さらに数人の児童を対象に資料をもとにした授業(マイクロティーチング)を試み、目標分析の一助にした。と同時に、これまでに以上に教材の考え方について児童の立場から検討を加えた。

b 事前調査をふまえた単元構成

教材として取り上げる「南蛮貿易と日本町」を天下統一の中に位置づけ、aで定められた目標を事前調査の結果を参考にして、入口と出口を明確にした上で構成した。

c マイクロティーチングを使つての授業細案

単元構成に基づいた一次授業案を、今回はマイクロティーチングの手法を生かして二次授業案を作成した。この部分が我々の前に

*金沢大学教育学部

**大阪大学人間科学部

*** 仲谷外志子 金沢市立材木町小学校

野田 大介 金沢市立小坂小学校

花外 健男 金沢市立味噌蔵町小学校

細川 紀彦 金沢市教育委員会

村本外志雄 金沢市立浅野町小学校

屋敷 道明 金沢大学教育学部付属小学校

新保 賢良 研究協力員(現金沢市立駒婦小学校)

****水越敏行・金沢市社会科教育研究グループ

「歴史学習における授業設計と評価」

金沢大学教育学部教科教育研究第8号, 1975。

も触れたが新しい試みのひとつでもある。授業案の修正法には、異った学校学級で授業をし、その結果から修正していく方法がよくとられる。しかし、子どもの思考のルート、変容のようすがあいまいなまま、全体としての印象で修正される場合が多かったことを反省し、この方法をとり入れたわけである。

(2) 授業の評価

目標分析に利用したキーワードを使った児童の思考の変容の評価法を前に実証してみたが、今回は、アナライザー利用による分節毎の評価の方法と、学習終了後の段階評価法の二つの立場から、一時限の学習の評価を考えてみた。

前者は、内容の確認、イメージの形成、資料のよみとりを中心に、後者は、到達度と発言回数及び資料の活用能力に視点をあてた。

以上の研究を進めるにあたり、マイクロテーピングのとり入れを含めて5回の研究授業を行った。

3 授業の設計

(1) 目標分析

授業設計を具体的にすすめていく基盤になるものは、目標である。では、いかにして目標を設定するかについて本研究でとり上げた「天下統一」(小単元・南蛮貿易と日本町)を例にして述べよう。

歴史学習を探究的にまた発見的に進めるために今まで数多くの実践例が報告されており、種々分析も行なわれてきた。我々の研究グループも過去に明治維新や鎌倉武士などを実践しながら、理数科のように公理がなく、法則性のはっきりしない社会科における目標の一般化や、客観性のある単元構造への追究を進めてきた。それはキーワードによるマトリックスの作成によって研究したものであった。そして内容目標や能力目標を意識し、目標のちらばりの適正化をはかることに努めてきた。

本研究では5社の教科書について、記述内容を集約し、共通的要素を検討するという手法を試みた。

先ず目標を具体化するために、教科書の内容から海外進出の部分を取り出し、それを手がかりにしてより客観的目標へアプローチしてみた。

各社とも信長・秀吉を中心とした記述と、家康を中心とした記述の二箇所を説明しているののでその概要を記してみよう。

最初信長・秀吉についての記述を要約してみよう。

- (A) 信長は商人が自由に海外へ行きかうことをゆるし、キリスト教の教会や学校もたてた。秀吉も海外貿易に力を入れた。朝鮮出兵したが失敗した。
- (B) 堺・博多・長崎などの大商人は、朝鮮や明をはじめ、カンボジア・シャムへ出かけて貿易を行う。秀吉は朱印状を与えて統制した。
- (C) 秀吉は海外にも目を向け、東南アジアとの貿易を保護した。朝鮮出兵したが失敗した。
- (D) 秀吉は海外貿易に力を入れ、朝鮮進出をはかったが失敗した。
- (E) 秀吉は、交通を便利にし、鉱山をひらいて金貨・銀貨をつくった。海外貿易もすすめた。

以上は信長・秀吉を中心にした海外発展の記述である。

ここから考えられる要素は、

「信長・秀吉らは、大いに海外発展をねがい貿易を奨励した。」である。

つぎに、家康を中心にした海外発展の記述は下記のようなものである。

- (A) 家康は秀吉と同じく海外へ出かける貿易船を保護した。そのため幕府が開かれてから約30年間、南方へ出かけた日本人はのべ10万人といわれ、日本人の町さえできた。
- (B) 家康は、東南アジアの国々と平和にまじ

わり、貿易をすすめたので、多く日本人が海外へでかけて行くようになり、各地に日本町をつくり、貿易の仕事を行っていた。

- (C) 家康は外国との貿易をすすめたので、これまでのポルトガル・スペインのほかにもオランダ・イギリスとの貿易も始まった。日本の商人の中にも東南アジアの町や港へ貿易に出かける人も現われた。
- (D) 家康も秀吉と同じように外国との貿易に力を入れた。このころ、ポルトガル・イスパニアのほかオランダの船も日本へ来て貿易をした。日本の貿易船も幕府から朱印状をもらって、さかんに東南アジアへ出かけた。今のフィリピンやベトナム・タイなどには、たくさんの日本人が住みつき、日本町がつくられるようになった。
- (E) 家康は、秀吉と同じように外国との貿易を保護したので、朱印船が東南アジアに出かけた。フィリピンやシャムなどには日本人でつくった日本町もできた。

この記述から考えられる要素は

「日本人の海外進出が大いに進み、海外で活躍する人もあらわれ、日本町もできた。」である。

教科書の記述行数や資料数は、どの教科書も家康を中心とした記述のところで大半をしめ、しかもこの記述のある項目が「鎖国」が多く、海外発展はしたが、やがて基本政策との矛盾で鎖国につながっていくような構成で書かれている。

ここで我々は、目標設定にあたり「南蛮貿易と日本町」の位置づけをどうするか考察した。

- ・内容、能力、情意などの目標から吟味する。
- ・子どもの歴史学習への興味・関心の検討をする。
- ・歴史の見方・考え方の育成について考察する。
- ・人物の扱い方について考察する。
- ・資料収集の可能性について考察する。

.....

これらの観点は、目標設定や学習をどこに位置づけるかの段階で絶えず考慮されるべきものである。考察の結果はつぎの二論で集約した。

- ① 海外発展政策は、やがて家康の政権確立のための基本政策との矛盾を生むものになり、その因果関係追求の検証資料としての位置づけが強くなり、目標はつぎのようになる。

「戦国の世は、信長・秀吉らによって統一され、家康による江戸開府で強固な幕藩体制をきずき、武士の世の中を確立したことを理解させる」

- ② ポルトガル・イスパニア商船に刺戟されて日本人の海外雄飛が大いに高められ、海外で活躍する人もあらわれたり、日本町もできたりして人々の心の中に大きな夢があった時代であるという考え方に立つと、安土桃山時代という時代区分で一つのまとめをする。

目標は「信長・秀吉らの天下統一、鉄砲やキリスト教の伝来を機に日本人の海外発展、桃山文化など当時の人々の生活や文化にも関心を深める」である。

我々がこの題材を取り上げた理由の中に「明治維新」や「鎌倉武士」の指導では、内容目標に大きなウェイトがかかり、理論的な追求の多い目標や単元構成をしてきたので、この日本人の海外発展の題材を通して、情意的目標をいくらかでも位置づけるには格好のものであるというねがいがあった。

前述したように教科書の構成では、「鎖国」という項目の中での扱い方がほとんどであり、海外進出が鎖国に結びつけられる記述の仕方である。このような位置づけをすると我々のねがいは出てこない。

したがっていくつかの異論もあったが、長い歴史学習の過程の中で一律のパターンによる学習でなく、多様な展開も必要であろうという意味もこめて、②の立場を取り上げ、以後の授業設計をすすめていった。

(2) 単元構成

研究のねらいでも強調したように、我々は児童の思考過程を単元の中でどう生かし、また、それに基づいた授業はどうなかねばならないかを追求することが主なるねらいの一つである。そのため、単元を構成する前に、児童がどれだけの知識や考えを持っているかを調査することから作業を始めた。

(ア) 事前調査(金沢大学附属小学校6年1組)

南蛮貿易と日本町についての予備調査

(9月8日、室町時代にはいった時点で実施)

① 日本の歴史の中で、日本人がどんどん海外へ進出していった時代があったことを知っていますか。

はい20人 52.6% いいえ18人 47.4%

② それは何時代でしたか、また、今からおよそ何年ほど前だったのでしょうか。

江戸時代12人 31.6% 飛鳥時代3人 7.9%、奈良、安土桃山、明治時代各1人あて 2.6% 無解答 20人 52.6%

500年前 4人 1300年前 3人 300年前 2人
200年前 2人 後1350年, 700年, 400年, 350年, 250年, 150年, 100年 各1人

③ 朱印船が活躍した地域はどの方面だったのでしょうか。

九州8人 オランダ5人 中国朝鮮1人 鹿児島1人 西洋シャム1人 大阪神戸1人 江戸1人 マレー1人

④ 朱印船のおもな基地は日本のどのあたりにあったのでしょうか。

瀬戸内海4人 堺3人 大阪3人 九州3人 長崎2人 江戸1人 マカオ1人

⑤ どんな商品を輸出入していたのでしょうか。

輸出 絹織物3 生糸2 鉛2 鉄2 茶2 刀1 瀬戸物1 仏像1 木材1

輸入 鉄砲4 お金3 茶3 タバコ2 薬, 時計, ワイン, 各1 キリスト教1 西洋の文化1 医学1

⑥ 日本人が海外へ進出して住みついた町をなんといいますか。

日本人町8人 21% 日本町3人 7.9% 植民地1人 2.6%

⑦ その町を知っているだけ書きなさい。

シャム1人 ナホトカ1人 タイの日本人町1人

⑧ その日本人はどんな身分の人が多かったと思いますか。また、そのわけも書きなさい。

○身分の高い武士—海外へ行くには費用も多くいるし、普通の人では行けない。4人

○キリスト教徒—日本でキリスト教が禁止されたから。3人

○医者・学者・科学者—海外の文化を学び日本の文化を向上させるため。3人

○商人—品物を売買するため。3人

○武士—日本では出世できないから。2人

○農民—税がおさめられず日本から脱出するため。2人

○少しえらい人—外国へ行く人がだらしのない人だったら外人に日本を悪く見られるから。1人

⑨ 海外へ行った日本人はどんな気持ちで行ったと思いますか。

○新しい文化を日本に取り入れたい。3人

○海外の国はどんなになっているか知りたい。3人

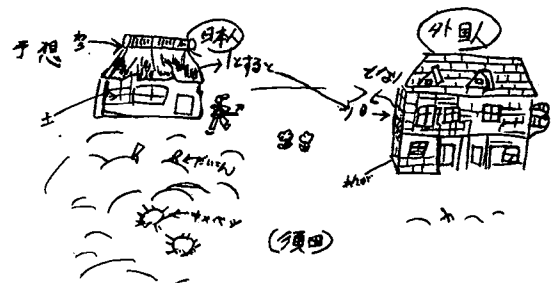
○日本での苦しい生活からぬけ出し海外でいい生活がしたい。2人

○新天地に行って名をあげたい。2人

○その他、不安・心配・好奇心・、あこがれ、期待、あらしに会わねばよいが といったものが散見する。

⑩ 日本人は海外でどんな家に住んでいたか想像して絵に書きなさい。

(11人の児童が絵を書いたが、次はその中の1枚である)



事前調査の結果から、児童は半数以上（52.6%）が知っていると答えていながら、内容の詳細については殆ど理解していないことがわかる。(2)で飛鳥時代と答えたのは、前の学習で聖徳太子の年代と事柄を連想したのであろうし、最後の絵からは、日本人の生活水準は外国にくらべて極端に低いものであるという先入感からぬけ出せないことをよく示している。

これらのデータをもとに、われわれは単元の構成を試みた。

(イ) 単元構成

単元名 天下が統一されるまで (9時限)

単元の内わけ

天下の統一……………5時限

南蛮貿易と日本町、文化……………4時限

単元の目標

戦国の世は、信長・秀吉・家康の三人によって統一されたが、この頃ヨーロッパ文化の流入が大きな影響を与えたことにより、日本人の海外進出の気運も高まり、それを象徴するような豪華で雄大な文化が栄えたことを理解させる。

各時のねらい

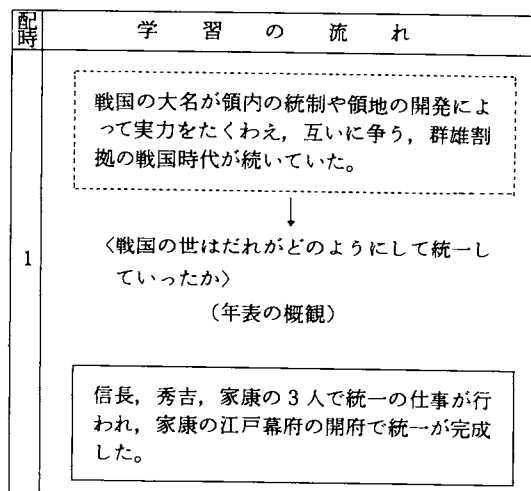
- ① 戦国の大名が領内の統制や領地の開発によって実力をたくわえながら、互いに争っていた戦国の世を想起させ、年表を参考にして、天下が統一されるまでの時代を概観し、学習問題をつくらせる。
- ② 織田信長の天下統一事業の経過を知り、信長が天下統一のさきがけとなることのできた理由を信長の人物像を通して考えさせる。
- ③ 豊臣秀吉の大阪城建築や検地・刀狩による天下統一の様子を知り、武士が治める世の中のしくみの基礎をつくることのできた理由を秀吉の人物像を通して考えさせる。
- ④ 徳川家康の苦難にみちた生い立ちと、秀吉の死後、政治の実権をにぎり、江戸幕府を開くに至った経過を知り、家康が天下を統一することのできた理由を家康の人物像を通して考えさせる。

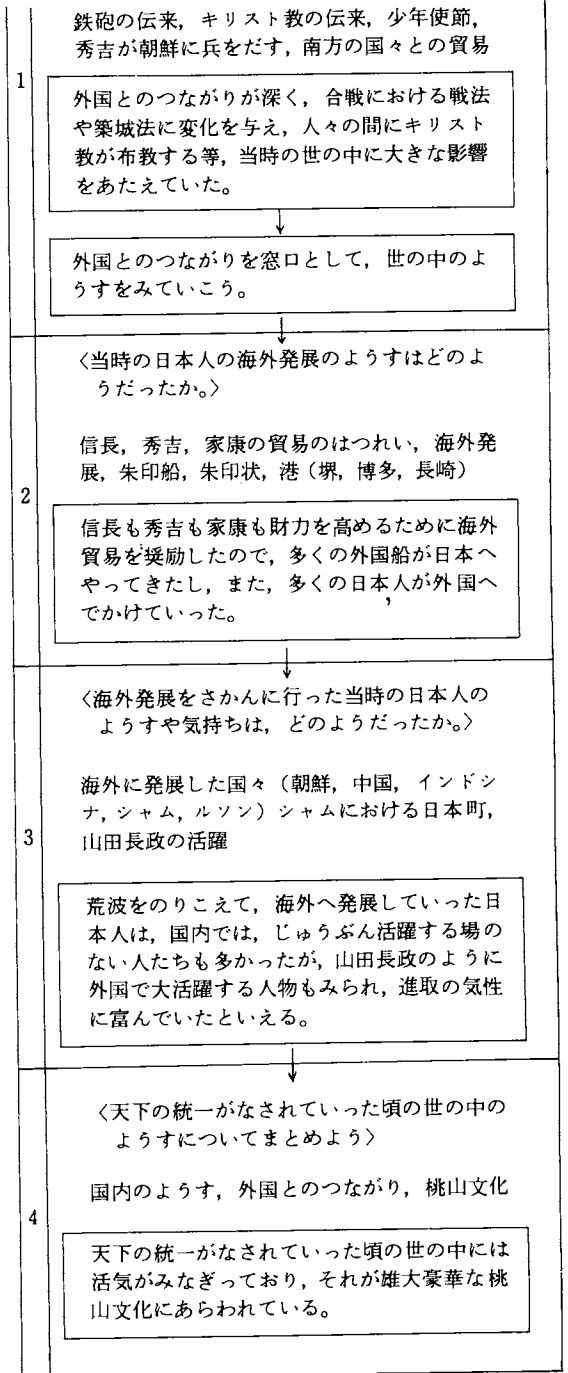
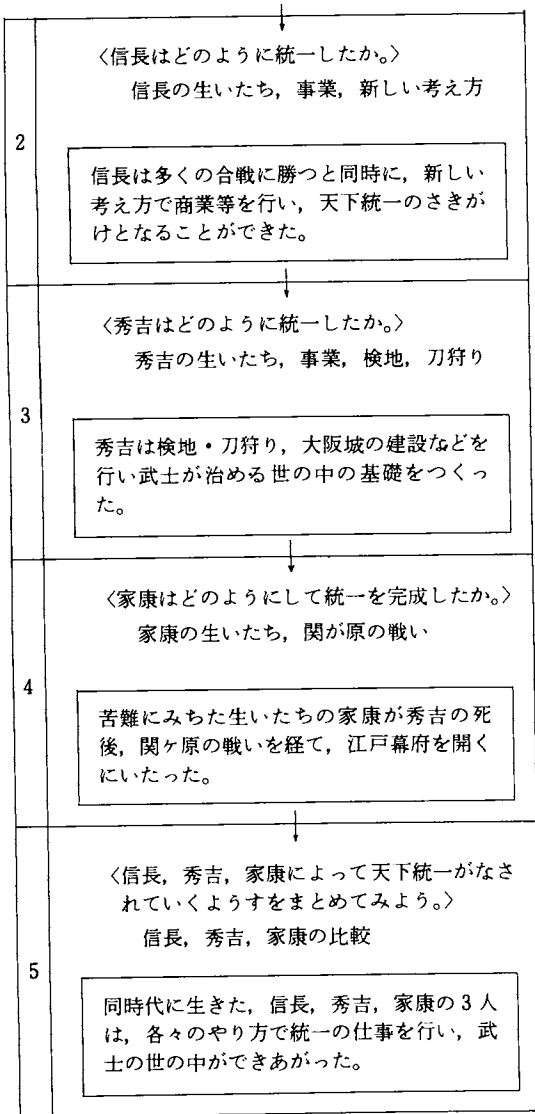
- ⑤ 戦国の世が平定され、天下が統一されていく様子を信長・秀吉・家康の業績や人物像をもとにイメージ化させる。
- ⑥ ヨーロッパ文化、特に鉄砲、キリスト教の伝来を知り、それが天下統一の過程や日本人の生活様式に大きな影響を与え、さらに、日本人の目を外国に向けさせたことに気づかせる。
- ⑦ 信長・秀吉・家康はともに、海外貿易（南蛮貿易）を奨励したことを知り、その理由を考えると共に、外国（ヨーロッパ）の東洋進出の動向についても知らせる。
- ⑧ 海外貿易奨励の結果、海外に出かけていく日本人が増え、やがて東南アジアに進出した日本人が日本町をつくり、山田長政のような人物もでてきたことを知り、当時の日本人の心意気について考えさせる。
- ⑨ 天下が統一される頃の人々の生活を外国とのつながりからイメージ化させ、それが雄大な豪華な桃山文化にあらわれていることを理解させる。

単元の流れ

第一次 天下の統一（5時限分）

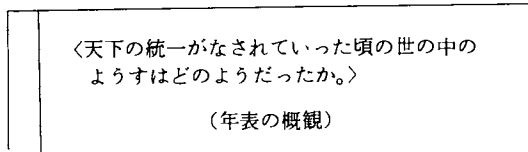
戦国の世は信長・秀吉によって統一され、家康による江戸開府で強固な幕藩体制がしかれ、武士の世の中が確立されたことを理解させる。





第2次 南蛮貿易と日本町・文化(4時間分)

信長・秀吉・家康の三人は海外貿易を奨励したので日本人の海外進出の気運も高まり, そのため, 当時の世の中の様子に活気がみなぎっていたことを理解させる。



以上のような学習の流れを構成した。なお本単元では, 南蛮貿易と日本町について深く掘り下げるのがねらいであったために, 次のような,

児童の意識の流れと学習内容、さらに資料との関係について一応の学習展開案を試みたわけである。

(3) 一次授業案とマイクロテーチング

我々は、単元設計に基づいて授業細案を立案する前に略案をたてそれを少数の抽出児を対象にして授業にかけてみることを試みた。このような手法（マイクロテーチングとよぶことにす

る）を取り入れたのは、今までの授業研究では、あまりにも教師サイドから分析した授業案であったことである。さらにそれを児童側におろした場合に、“児童はどのように反応するか”を知るために他学級を使用して検討することが多かったために、教材の進度・時間的調整、学級集団の質等に左右されて効率ある検討ができなかった事が度々みられたこともある。

そこで我々は、今回の授業研究を次のような手順と観点で実施した。

- ① 授業略案をたて 学級内から次のようなグループで児童を抽出する
 - Aグループ 上位1名。
 - 中位2名
 - Bグループ 上, 中, 下位1名づつ
 - Cグループ 中位2名。
 - 下位1名
- ② 業後それぞれのグループをマイクロにかける。
- ③ マイクロにかける時のチェックポイント
 - ・ねらいに到達するための教材の質
 - ・授業案の組み方と児童の思考とのずれ
 - ・問題意識の高まりと持続性
 - ・教師の発問・資料の適切性

第二次「南蛮貿易と日本町」………4時間

時	学習内容	児童の意識の流れ
	前時までの意識	<p>天下が徳長・秀吉・家康の3人によって統一されていくようすを学習することにより、この頃の世の中のようなすがたがはつきりしてきた。</p> <p>外国とのつながりを学習すれば、もっとこの頃の世の中のようなすがたがはつきりしてくるだろう。</p>
1	1 学習問題を把握する。 2. 年表を観覧する。 3 この時代の外国とのつながりの特色を考える。	<p>徳長・秀吉・家康のいた時代は、外国とどのようなつながりがあったのか。</p> <p>徳長 ・鉄砲伝来 ・キリスト教が伝わる。</p> <p>秀吉 ・朱印船貿易 ・朝鮮出兵 ・フィリピンへの遠征</p> <p>家康 ・オランダとの貿易 ・朱印船貿易 ・イギリスとの貿易</p> <p>ヨーロッパの国々とのつながりができた。外国からいろいろなものが伝わってきた。日本人が遠い南方の国々へ出かけるようになった。外国に日本人の町ができた。</p>
2	1 学習問題の確認をする。 2 資料で、この時代の外国とのつながりのようすを調べる。 3 この時代の外国とのつながりのようすについて、自分の考えをもつ。	<p>日本と外国のつながりが今までの時代とは、ずいぶんちがってきた。もっと、くわしく調べてみよう。</p> <p>日本へやってきた南蛮人 ・ポルトガル人の来航 ・キリスト教や鉄砲の伝来 ・オランダ、イギリスの進出 ・日本人の反応</p> <p>南方へ出かけて行った日本人 ・朱印船と朱印状 ・朱印船の行きさき ・しれた品物 ・日本町のようす</p> <p>ヨーロッパ人は、キリスト教を伝へて貿易をさかんにし、さらに、領地をもとめてアジアに進出してきたのだ。しかし、日本人も貿易をするためにたくさん船で多くの人々が南方へ出かけて行き日本町でくらしている。</p>
3	1 学習問題の確認をする。 2 朱印船の旗や日本町について、イメージ化する。 3 当時の人々の気持ちについて考える。	<p>南方へ出かけて行った人々や日本町に住んでいた人々のようすは、どうだったか。</p> <p>・どのような船で行ったのだろうか。 ・どのような船だったと思うか。 ・日本町はどんなようすだったのか。 ・日本町に住む人々はどんな生活をしてたのか。</p> <p>この頃の人々はどんな気持ちで外国へ出かけ、そこに住んだのだろうか。</p> <p>貿易をして、お金をたくさんもうけたいと考えた。 → 日本にいても出世できないので、外国へ出かけてやろうと考えた。</p> <p>この頃、外国へ出かけて行った人たちは、たかまじい気持ちと大きな希望をもっていた。</p>
	1 天下が統一されていた世の中についてまとめる。 2 まとめたようすを発表する。	<p>天下が統一されていた時代の世の中のようなを天下を統一していた人物や南方へ出かけていった人々を想起してまとめるのだ。</p>

・配当時間 ◇実施日 昭和51年9月2日 業後
 ア 授業案 ◇グループ名 Cグループ (1)・・・下位 } 女子
 イ マイクロテーチングの実践記録 (2)・・・中位 }
 ◇調査対象校 金沢市立泉野小学校 (3)・・・中位 }

6年2組

授 業 略 案

1 題 目 日本人の海外発展（第二次中23時）

2 本時のねらい

16世紀後半から17世紀にかけて外国へ出かけて行く日本人がふえた。やがて東南アジアに進出した日本人がそこに日本町をつくり、山田長政のように大活躍する人物もあらわれたことをわからせるとともに、そのころの日本人の心意気について考えさせる。

3 指導過程

学習事項と活動	時間	児童の主な思考の流れ	資 料
<p>1 朱印船の渡航地</p> <ul style="list-style-type: none"> 朱印船の行き先を地図で調べる そのころの航海のようすを資料から読みとり苦勞を話し合う 	45分	<p style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">このころの日本人は海外のどのあたりへ出かけたのかな</p> <pre> graph TD A[朱印船の渡航地] --> B[東南アジアや南方の国々] A --> C[季節風を利用 20日~40日もかかる] B --> D[日本のまわりの国が多いがそのころは遠い国なので] C --> E[とつてもきけん航海だ] D --> F[しかし、たくさんの人たちが海外へ出かけている] E --> F </pre>	<p>地図「朱印船の渡航地」</p> <p>絵「朱印船」</p> <p>「貿易品」の資料</p> <p>物語文「末吉船」</p>
<p>2 海外発展の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外へ出かけたわけを予想する 豪商の海外発展について検証する 山田長政を代表人物として検証する 	35分	<p>大へん、きけん航海だったのに、多くの人たちがどうして海外へ出かけたのだろうか</p> <pre> graph TD G[貿易をして金をもうけをするためかな] --> H[末吉船は幕府から朱印状をもらい、約2倍の純益があった] G --> I[外国へ行ってみたい 自分の力をためてみたい えらい人になりたい] G --> J[自由な暮らしをしたい 日本がいやになったのかな] I --> K[日本人の手で日本町を造って生活している] J --> K H --> L[船主(大名や豪商)はやっぱりもうけが多い] K --> M[山田長政のように、国王に信用されたえらい人もあらわれた] L --> M </pre>	<p>絵図「日本町のようす」</p> <p>物語文「日本町」</p> <p>物語文「山田長政」</p>
<p>3 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> そのころの日本人の心意気について自分なりの考えを話し合う 	10分	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">きけん航海をのりこえて、外国へ発展した人たちは、大きな希望に燃えて、海外で活躍したのだな</p>	

日本人の海外発展

教師の働きかけ (発問・助言・資料)	児童の思考の流れ		
	(1)	(3)	(2)
<ul style="list-style-type: none"> 資料「朱印船の渡航地」の地図を提示 日本がどこにあるかわかりますか その所の日本人はどのあたりへ出かけていますか 	はい	はい、ここ ↓ ツラシ、タイ、シヤム、フィリピンなど日本町のあったところ	はい
<ul style="list-style-type: none"> 私も2と同じく日本町や日本人が住んでいたところ 	うん、うん (指できょりをはかり始める)	タイ、フィリピンとか日本町や日本人が住んでいたところ	
<ul style="list-style-type: none"> そのあたりは日本からみてどのあたりですか 	日本から近いところやね	近いけど船だったら何日もかかったのじゃない	私も1と同じく近いところ
<ul style="list-style-type: none"> 資料「末吉船の航海」の物語文を読ませる その所の航海をどう思う? 	台風なんか来ると行けないね	1年に1回しか行けなかったのね	風のむきを利用していかから住きは北風でしょう。帰りは南風だから台風がくるとかえれないのでは……。
<ul style="list-style-type: none"> あつ、そうか。備えれんがーうん、そうそう。 やね ↓ きけんやね。 結婚していたらやめてくれたのむわ 	中国(唐)へ行ったときもきけんやった。唐の文化をとり入れるために自分を無にしてでかけたね	うん、うん	私も3と同じようにきけんやったと思う。日本を発達させるために行ったほうがよいと思うけど…とちゅうであらしにあらうときけんや
<ul style="list-style-type: none"> 資料「朱印船」の絵をみせて、この船をみてどう思う 	うん、うん	うん、うん 命がけやね	うん、うん
<ul style="list-style-type: none"> うん ちょっとこの船をみて何人も乗ってるよ 	うん	「ほ」があるね ヨットみたいになってるから風をたよりにしていたし ようこね ↓ 機械も発達していなかったし天候のよい日でも航海中にあらしにあったと思う。今は技術がいいけどその所は船で旅するのはやっぱりあぶないね	うん
<ul style="list-style-type: none"> たくさんの人やね 	うん	うん	うん さっきの資料では300人くらい乗ってるって書いてあるね
<ul style="list-style-type: none"> そのようにきけんな航海だったのどうして海外へ出かけたのかしら 	(考えこむ)	うん、うん その頃は技術が高度だったのじゃない。かんりん丸みたいに。 (資料の「末吉丸」を再び読み始める)	(考えこむ) とちゅうで風のむきが変わるし、全く風をたよりに… というのはこわいね

うん、
 せんす、はさみ、小麦粉な
 などを持っていったがやね

ここをみて、約2倍の純益
 かってかいてあるね

貿易として交換するための
 品物やね。すると、やっぱ
 り利益をえるために海外へ
 行ったのだ

「もうかるぞ...」。外国の
 めずらしいものと交換して
 お金をもうけるためね

うん

そのころは、貿易が必要だ
 ったのだと思う。
 日本を守るためかな...

うん
 もうけるためもあるが日本
 にはない品物を輸入して、日
 本の文化を発達させようと
 したのではないかしら？
 大阪の商人はしょうばいが
 うまいし...。↓
 自分が商売するのに必要な
 ものを仕入れたみたい。つ
 まりそれを加工して製品に
 して売るとか。火薬なんか
 そうね。↓
 国内に争いがあったのかし
 ら

うん
 うん

争い？

そのころ海外へ出かけた
 人はどんな人たちですか

商人や職人

もっとも多いがね。
 キリスト教信者ってあるね
 日本人かしら？

キリスト教信者ね？

武士もいるよ。
 武士ね？

争いに勝って日本町を作っ
 ったのかしら？

日本が広くなった感じよね

やっぱりそう思う？きもん
 ね。そのころ、マニラなん
 かへ侵入した感じ。
 今は、植民地ってないけど
 そのころはあったしね。

日本町！つまり日本人が多
 いのね

日本町ね
 そうすると、やっぱり貿易
 か。

うん

(3人資料を読む)

いっしょ

長政はシャムにわたり重要
 な働きをした人ね

うん、同じ

観光でシャムに行ったのじ
 ゃないし、仕事でもない

外国へ行ってみたいという
 強い気持ちがあったのでは

どうしても行かなくては...
 という気持ちで行ったのじ
 ゃない

「かごかき」なんておもし
 ろくない。海外の国へ行っ
 て働いてみたいという気持
 ちがあったのでは...

役に立ちたいのかな

低い位から高い位になっ
 たね。自分の力をためしてみ
 たかったのかな

人のためにつくし、役立ち
 たいと努力したから高い位
 についた

位をめざして働いたわけ
 でもないし

動機があつていったのだし
 なにかしら？

やっぱり外国へ行って働い
 てみたかったのだわ

うん、うん。

・はい、どうもありがとう

ウ 考 察

マイクロにかけた時点は、児童は鎌倉幕府の後半を学習中であった。つまり時代を越えて実施したわけであるが、記録に見られるように児童の興味は強く意欲的な学習態度であった。我々が一番心配していたこのころの人々のロマンを6年生が追求できるかどうか……。の点では、中、下位群の児童が、金もうけもあって海外へ進出したが、まだほかに理由がありそうだと……といっている点に目をつけたい。そのころ海外へ進出した人たちは、商人や職人が多くさらに武士であった長政のかごかきの地位について考えている点に驚ろかさされた。特に3の「かごかきなんておもしろくない」という考えを追求して行けば、信長、秀吉、家康のころの社会情勢から推測してその頃の人々のロマンや自由を求めた姿が浮きぼりにされるのではないだろうか。そこで我々は児童に困難を乗り越えて海外へ進出した理由を考えさせ、それを豪商・末吉孫左衛門と武士・山田長政で検証する学習の流れをたどればよいだろうという結論に達した。

ただマイクロにかけたときは約50分の時間を要しているので実際の授業になればその倍はかかるだろうから、海外進出の理由のところにウェートをかけた流し方をして行きたいと思う。

4 授業の実施（二次授業案による）

〈事例①〉

授業の記録（金沢市立小坂小学校6年1組）
 板書 これは学習事項2の部分についての記録で、全体の学習の展開はP7を参考にしている。

貿易のために外国へ出かけたり、日本町をつくっている人々は、どんな人で、どんな気持ちや考え方を持っていたか。

……………（前 略）……………

C 15 どんな気持ちで外国へ出かけたかと

1. 題 目 南蛮貿易と日本町（第二次中3時）
2. 本時のねらい
 16世紀後半から17世紀にかけて、外国へ出かけて行く日本人がふえ、やがて東南アジアに選出した日本人がそこへ日本町をつくり、山田長政のように大活躍する人物もでてきたことをわからせるとともに、そのころの日本人の心遣いについて考えさせよ。
3. 指導過程

学習事項と活動	時間	児童のおもな思考の流れ	資 料
1 本時の学習問題の確認	1'	貿易のために外国へ出かけたり、日本町をつくった人々は、どんな人たちで、どんな考え方や気持ちをもっていたのだろうか。	
2 海外発展をした人々の気持ちや考え方の予想 ・ 石時の学習をもとに話し合う。 ・ わからない点についても出し合う。	9'	たくましい人、強い人 ・ 外国へ出でてやっかん。 ・ 貿易をしてお金をもうけたい。 ・ 外国へ行ってみよう。 弱々しい人 ・ 日本にいてもだめだ。 ・ 外国なら出でできる。 その頃の人々のことがわかる資料があると、もつとわかる。 資料5. 6の東吉孫左衛門・山田長政は、どんな考え方や気持ちをもっていたのだろうか。	資料5 「河内の豪商 末吉孫左衛門」 資料6 「山田長政の活躍」
3 東吉孫左衛門・山田長政の海外発展の気持ちや考え方の話し合い ・ 2人の人物の気持ちや考え方について調べる。 ・ 2人の人物の考え方の違いや類似点について話し合う。	30'	末吉孫左衛門 ・ 南方へ行って貿易をしよう。 ・ 貿易をして、お金をたくさん、もうけよう。 ・ 南方にある、いろいろな品物を日本へもってこよう。 山田長政 ・ 日本にいても出でできない。 ・ 外国へ行ってがんばろう。 ・ 外国には、すばらしい生活がある。 ・ 日本人の儲けをみせてやろう。 お金をもうけたという気持ちの強い人、そのためには命をかけて、でかけて行く人だ。 日本では、だめだから外国へ行って、自分の力をためたいという強い希望をもっていた人だ。	
4 その頃の人々の心遣い ・ 2人の人物の学習をもとに、その頃の人々の気持ちや考え方について話し合う。	4'	この頃の人々は、日本にいてもだめなので海外へ出て、外国へ出かけて、自分の夢をかなえたいという大きな希望をもっていたのだな。	
5 次時の学習の確認	1'	次時は、天下が統一されていった世の中について、まとめてみよう。	

いうと、南方の方へ行って金もうけをしようとか出世しようとか思って南方へ出かけていったと思います。それは南方では日本製の品物が売れるので、日本の品物を高く売りつけて金もうけをしようと思っていることと、日本では出世しようと思ってもできない人が外国へ行ったら出世できると思って行ったと思います。

C 16 外国へ行くと、出世できるというでしたが、どうして、日本人が外国に行っても出世できるのですか。そういう資料はあるのですか。

C 17 Sさんは、外国へ行ったら出世できるのかなァーと思って朱印船に乗りこんで外国へ行ったというのですが……。そんなできるかなァーぐらいやったら、広い海へ出て木の葉みたいな船で、いつ台風が来るかわからないのに、この広い海を「かなァー」ぐらいの気持ちで行けない

と想うのです。

- C 18 ぼくは、外国でお金をどっともうけて日本にえらそうな顔をして帰ってやろうと思っていたのだと思います。
- C 19 貿易船に乗る人はキモのでかい気の強い人ばかりで、気の弱い人は木の葉のような船で太平洋をわたって行くのだから乗らなかったと思うし、キモのでかい人は金のためならイチカバチかやってみるといふ気持ちになったと思います。
- C 20 ぼくもやっぱり、船に乗る人は気の強い人で、目的はお金もうけもあるし、自分たちを知ってもらいたいとか、いろいろなことがあってだと思ひます。
- T 14 あとは、付け加えなど自由に言ってください。
(数人) つけたして。つけたして。
- C 21 ぼくも、貿易船に乗った人は、たいいていのが気が強くて。それは、なぜかという、この船はでっかい太平洋から見ると、たった一つのチョボにしか見えなくて、ちょっと荒波でも沈没しそうな船で、……根性の強い人しか乗れないと思ひます。そして、日本町で働いている人の気持ちは、今まで日本であまりにお金が少ない、貿易船に乗ってきた時、ふろしきにお金を少しと食器とか着るものだけでびんぼうな人が多くて、商人もいたけれど、びんぼうな人たちが日本と外国のためになんとかしてお金もうけをしようと、いっしょうけんめい働いていたと思ひます。
- C 22 そんな貧乏な人たちなら行けないんじゃないですか？船に乗るお金なんかないし……。
- T 16 ということは、君は金持ちがいったんだってことだね。
(数人) 金持ちー、金持ちがー？
- C 23 金持ちとかいいましたが、浪人なんかも、外国へ行っていっしょうけんめい手

がらをたててやるんだと思ひて、質屋とかへ行って、自分の服を売ってかせいだり、田畑の手伝いをしたり、商人の家の浪人になって、その商人を守ったりしてやっとお金がたまつたという時に。……先生、資料出していいですか。

(ここで自作OHPシートを出す)

こういうふうな浪人さんが、オレはなァー、あっちの護衛兵になって、敵の大將の首をとって、このように金銀財宝をいっぱいもらつてやるんだと考えて、資料4の6行目に書いてあるようなことです。

……………(略)……………

このシートに書いてある人はみんな夢をもってあっちで実現させてやろうと思ひていて、気の弱い人なら、お金をもっているのなら日本でかせいだ方が自分の身を考へれば安心でしょう。そういうことから考へても、外国へ行った人は、そこのヤツよりえらくなつて、一世一代の大仕事をしてやるんだという人が、こういう夢の船に乗つて出かけて行くんだと思ひます。

- C 24 ぼくは、ちがつてM君は気の強い人が行くといひましたが、金のためなら気の弱い人でも、船にちぢこまつて、こわそうにしているけれど、日本町についたら金、金って言つて、やっぱり気の弱い人でも行って、もうけようという気持ちがあつたと思ひます。
- C 25 お金のために行くといひましたが、お金より自分の命のほうが大切だと思ひて行かないんじゃないですか？
- C 26 あの船はちっちゃいというけれど、昔ではあの船はでっかいといわれているので、やっぱり気の弱い人も、大きいのを信じて、その船に乗つて外国へ行ったのだと思ひます。
- C 27 K君たちは、気の弱い人でも、金のた

めなら行くというけれど、朱印船は昔やったらでっかいけど、太平洋のまん中やったら針の穴みたいで、台風でも来たらびっくりかえりそうなもんで、気の弱い人やったら金もうけより、生きとるほうがいいわいとか考えるので、朱印船に乗りこんで金をもうけてやるという人たちは気が強くて、……気の強い、夢をもった人たちだと思います。

C 28 ぼくも I 君の考えによく似ていて、商人たちは、お金をもうけるには外国と貿易すればいいと考えて、日本と外国と貿易をしてガッポリかせいだと思います。だから夢をもった人たちが外国と貿易をしたと思います。

C 29 私は、外国へ行った人は何か仕事をしようと思っていたけれども、日本はこの時代は身分がすごく区別されていて、日本ではもう自分はきまりきった生活しかできなくて、外国の日本町はいろいろなところから人が集まって町を作っているの、身分も関係なく自分の好きなようにというか、なんか自由というか、自分の人生をもう一回やりなおしてみたいというか、そういう気持ちがあって、外国へ行ったんだと思います。

C 30 ぼくは外国とかに行っただのは、身分のとても低い農民たちで、なんか日本はきまりきったつらい生活で、外国へ行って自由になりたいなァーと思って、そしてイチかバチかいてみて、日本町になったら、ここは自由だいいなァーと思ってなんかいろいろむこうで働いていたのだと思います。

C 31 検地があるので農民は逃げられません。だからそういうことから考えて、貿易が一番しやすい、徳川家康や豊臣秀吉におさえられ

ていない商人がやるんです。商人とか浪人。考えられませんか。

…………… (後 略) ……………

〈事例 2〉(金沢市立味噌蔵町小学校 6 年 3 組)

① マイクロテーチング (サンプル) の利用

今までの授業研究では、先駆者による事例を分析研究して教師の手で修正を加え、指導案を立てる場合が多かった。本事例はこの修正を授業を受ける児童自身の手によだねることによって、より思考活動を活発にし、学習の焦点化を計ろうとしたものである。

さらに言えば先駆者の実践をもっとそのまま活用できれば、授業前に要する多大な労力をもっと削減し、授業そのものにより力を注げることになるのではないかというのが素直な理由である。

② 授業の展開

題 目 南蛮貿易と日本町 (第 2 次中 3 時)
 本時のねらい 16 世紀後半から 17 世紀にかけて外国へ出かけて行く日本人がふえ、やがて、東南アジアに渡出した日本人がそこに日本町をつくり、山田長政のように活躍する人物もでてきたことをわからせるとともに、そのころの日本人の心意気について考えさせる。

児童の意識の流れ	時間	教師の意図
<p>〈ヨーロッパ人の活躍だけでなく逆に日本から外国へ出て活躍していたようすをしらべよう〉</p> <p>泉野小学校 6 年生 3 人の考えや意見</p> <p>つけくわえること 日本町のあったところ 日本人のいたところ 日本船の出入りしたところ</p> <p>輸出品 輸入品 など</p> <p>わからないこと 資料でも捜しえなかったこと</p>	15'	<ul style="list-style-type: none"> 読んで自分なりの考えをもちえたか。 グループで話し合ひさせ、一応の整理をさせる。 補充資料の活用はみとめる。教科書、資料帳、その他の参考書
<p>〈日本町へ出かけた。すんでいた人々の気持ちはどのようなものだったか〉</p> <p>もうけのため 文化をとり入れるため 身分をよくしたいから</p> <p>末吉保左衛門 山田長政</p>	25'	<ul style="list-style-type: none"> 基本資料 (前日記布のプリント資料 No. 1 ~ No. 4) を中心にしてこれにもとづいて考えを発展させる。
<p>〈いろいろな気持ち、海外に出た日本人によって日本町はどんどん発展したのだなあ〉</p> <p>〈その後日本町やそこに住んだ人々はどうなったのかなあ〉</p>	5'	<ul style="list-style-type: none"> 進取の気持ちをよみとっているものであれば差異を問題にしない。 頓悟へのつなぎ

③実施した手順

前日にマイクロテーピングを記録したものを配布し、見方を説明した。

「先生の質問」は教師の発問であること。「3人の考えや意見」はそれに対する児童の反応であること。資料とは「資料名」の欄中に掲げられたものであること。また「考えや意見」が番号で28から36まで続いている一人の意見に付加したり、反対したりという討議がおこなわれていることを意味していること。

以上の説明をした後で、掲載されている資料を2枚のプリントにして配布した。

学習の目あてはマイクロテーピングをよく読んで「考えや意見」をもとに、自分の考えを修正したり、発展させたりして日本町の人々の考えや当時活躍していた人々について学び、日本人の心意気を感じとることができるようにとした。

④ 授業の流れ

指導案および指導目標は前掲の通りである。ただ家庭学習してきた者が少数であったので、よりグループ活動に時間をかけて話し合わせた。

わからない事、付加する事に二大別して話し合わせ、その結果を発表させ話し合いを深めさせることにした。この結果でてきたことは次の通りである。

わからない事 ①どのようにして風力か人力しかない船の水・食糧を補給したか。②日本町が最初のできる頃のように。③ことばのことで何語をどれぐらいの人が使えたのか。④「先生の質問」6と7はどうして切り離して質問したのか。⑤山田長政の例とは反対の例があったはずだがどんな例があるのか。

付加されたことは、日本町の所在地名と数、季節風、輸出入商品名などであった。

授業の流れで最も活発な学習活動がおこなわれたのはマイクロテーピングで児童の意見や考えNo.24の後段以降からである。

どんな人たちがどんな目的で日本町へ行った

りしたのか6と7を混合させた内容にした方が考えやすいという意見で発表が活発になったようである。

資料3の日本町のように思考を促すのに適したのか次のような意見がみられた。

武士——幕府に反抗した人たち
 ——身分が日本であがらない人たち
 商人——もうけるため、身分を高めるため
 職人——技術や文化を日本に伝えるため
 農民——日本がいやで

これらの意見で武士に関しては34は日本国内ばかりでなくシャム国内などの争いも考えて言っているのではないかという疑問の提示があり、資料はないがシャムの国などが乱れていたのでは日本武士のような強い兵士が必要だったのでのではないかとの意見も述べられた。しかし多くの児童は反対意見や資料の不明確さを指摘してこの考えを伸展させえなかった。また農民や商人の意見については日本の法律が適用されていたことを理由にありえないとする意見もあった。これに対して山田長政が一介の籠かきであったのが出世したことをたてに商人の身分向上や農民の活躍をありうると反論したが、結局教師側の思惑をこえた思考活動であったため補助的な資料を提示できないままに打ち切りとした。

以上のように一応の「授業の流れ」が児童に理解できているがため、流れそのものが非常に流動的で全体としては試行錯誤的であったように思える。

5 授業の評価

(1) 一時限の学習の評価 (その1)

本時のねらいへの到達度

38名中26名の児童が授業設計者の意図にほぼ到達していたと考えられる。本時のねらいは既に示めておいたように、児童たちを心情的に深めることにより、社会背景をつかませようと設計したものである。それは単なる事実認識

児童の資料活用能力と本時の発言回数および到達度
(小坂小学校6年1組)

児童No	資料活用能力	本時の発言回数	本時の到達度	児童No	資料活用能力	本時の発言回数	本時の到達度
1	A	2回	◎	20	A	2回	◎
2	C	3	◎	21	B	1	◎
3	B	0	◎	22	B	1	◎
4	B	1	◎	23	B	1	◎
5	B	0	○	24	B	1	◎
6	A	5	◎	25	B	1	◎
7	A	1	○	26	C	0	○
8	A	3	◎	27	A	1	◎
9	B	1	◎	28	C	1	○
10	A	1	◎	29	B	1	○
11	A	2	◎	30	C	0	○
12	B	1	◎	31	B	0	◎
13	C	1	○	32	B	1	◎
14	C	1	○	33	C	1	○
15	C	0	×	34	B	0	◎
16	B	0	◎	35	B	0	◎
17	B	2	○	36	A	5	◎
18	A	2	◎	37	A	3	○
19	A	1	◎	38	B	1	◎

(注) 資料活用能力

- A 資料を正確にかつ論理的によみとる力が優れている。
- B " " ふつうである。
- C " " 劣っている。

本時の到達度

- ◎当時の人々の気持ちや考え方を想像することにより、当時の人々の夢、ロマンの心意気にせまっていると考えられる。
- 当時の人々の気持ちや考え方は想像しているが、金もうけのため、日本がいやになったのでといった範囲にとどまっている。
- ×当時の人々の心情について想像できない。

や関係把握をねらった学習とは違っている。しかしながら児童の資料活用能力や論理的思考力を無視しては、情動的に深まることは考えられないことから、それらをふまえた上で学習が成立していることは、いうまでもないことである。上記の表をみても資料活用能力の優れている児童は情動的に深まり、ねらいに到達していると考えられる。と同時に、資料活用能力は劣って

いても情動的に大へんな深まりを示めた児童もみられたことである。また能力的に優れていても情動的には深まりがなかった児童や発言が全くなかったのに情動的にはかなりの深まりをみせた児童もみられるのである。全体的にみても、能力差ほど心情面には差異がみられないのである。能力と情動的な深まりは比例の関係にあるとは必ずしもいえないのではなからうか。以下、具体例をあげながら、これらの問題点について考えてみたい。

資料活用能力と本時の到達度との関係

本時の学習においては、資料にもとづきながら、当時の人々の心情にせまらせるという学習形態をとっているため、本時のねらいに到達するために資料活用能力は重要なはたらきをすると考えられる。しかし、No.7やNo.37の児童にみられるように資料をよみとる力は優れていたが心情のとらえ方がねらいからずれてきていたという例がみられたのである。とくにNo.37の児童は資料の要点をよみとる力は優れていたが、資料の人物(山田長政)の性格の判断にこだわりすぎて、当時の多くの人々にみられた心意気を把握できなかったという例もみられた。逆にNo.2の児童のように文章をよみとる力は非常に劣っているにもかかわらず、絵を手がかりにして、積極的に話し合いに参加し、友だちの意見や学級の授業の雰囲気から当時の人々の心情に対するイメージを高めていった例もあった。

(No.37の児童の例)

資料活用能力 A
発言回数 3回
到達内容

人々の気持ちは「こんな日本からにげたい。」とか「金がほしい。」といった人たちで、こうまんちきな人たちやがめついな人だと思ふ。

(No.2の児童の例)

資料活用能力 C
発言回数 3回

到達内容

気が強いとか弱いということではなく、金がほしい、かごかきでおわりたくないといった気持ちで、みんな自分のために何かをしてやろうと思っていた。

本時の発言回数と到達度との関係

発言回数が0回の児童が9人みられたが、そのうち5人の児童がねらいに到達し、心情的にも深まり、この時代の人々のようすをよくつかんでいた。発言がなくても、学級の雰囲気や溶けこむことによりイメージが高まったと考えられる。心情的な深まりをねらう学習では、このような傾向がいっそうでてくるのではなかろうかと考えられる。

(No. 31の児童)

資料活用能力 B

発言回数 0回

到達内容

お金をもうけたい、日本でできないことをやってやろう、向こうで早く出世して楽な生活がしたいと考えて、南方へ出かけていった。

(No. 34の児童)

資料活用能力 B

発言回数 0回

到達内容

日本のきまりの型を破って自由になり自分の夢を実現したいと考えていた。

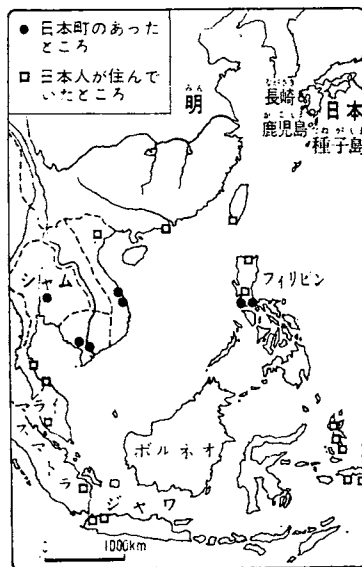
(2) 一時限の学習の評価(その2)

テンキーを中心とした授業の記録

(TK1)

日本人は海外のどのあたりへ出かけたのだろうか。前時からの引きつぎでこの学習問題から授業が開始された。資料は教科書(来年度から使用のもの)から引用したものである。児童からは口々に、東南アジアとか、中国とか発言があり、整理してテンキーを押した結果が次のよ

(資2) (中教出版より)



日本人の海外発展

うになった。

④ TKはテンキーの略号であり、F3はフォーマット3という意味であり、自己流の表記である。

* 045	* 015	010	013	* 015
015	010	024	015	* 015
020	014	012	010	012
012	010	015	015	014
015	012	020	012	015
010	*	010	010	045
		010	*	014
				(0015)

座席の順に印字したものであり、1は東南アジア、2はヨーロッパ、3はアメリカ、4は中国、5は朝鮮となっている。

指導過程の印字記号と比較すればわかるように、1番の東南アジア、南方を最初にあげたものが36名中29名で80.6%、ついでヨーロッパの3人、4番中国の2人、はっきりしないもの2人となっている。

さらに2番目に0を印字した児童すなわち東南アジアのみが12名であることをみるとかなり正確に資料を読みとったことになる。しかし地図には表われていない、朝鮮やヨーロッパが

指導過程と評価の位置づけ (金沢大学付属小学校6年1組)

学習事項と活動	時間	児童の主な思考の流れ	資料とテンキー (TK)
<p>1 朱印船の渡航地</p> <ul style="list-style-type: none"> 貿易船の行き先を調べる その頃の航海の様子を調べて話し合う 	10'	<p>〈日本人は海外のどのあたりへ出かけたのだろうか〉</p> <pre> graph TD A[朱印船の渡航地] --> B[東南アジア・南方の国々 日本のまわりの国が多い。 その他は遠い国] A --> C[とともきけん航海だ] B --> D[たくさんの人が海外へ出かけている] C --> D </pre> <ul style="list-style-type: none"> 季節風を利用する 20日間かかる ある時は40日も 	<p>資料2 「朱印船の渡航先の地図」</p> <p>TK1 1 東南アジア・南方 2 ヨーロッパ F33 アメリカ 4 中国 5 朝鮮</p> <p>資料1 「末吉船」の物語文</p> <p>TK2 1 とても危険な航海だ F22 たいた危険はなかった</p> <p>話し合いの間TK1の%を記録</p> <p>TK3 F31 思ったより多い F32 思ったより少ない</p>
<p>2 海外発展の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 大商人の場合 (末吉) について調べる 商人や職人、武士が多く海外へ発展したわけについて考え話し合う 山田長政について資料を読む 	25'	<p>〈大変きけん航海だったのに多くの人たちがどうして海外へ出かけたのだろうか。〉</p> <pre> graph TD A[大変きけん航海だったのに多くの人たちがどうして海外へ出かけたのだろうか。] --> B[貿易をして金もうけするため] A --> C[外国へ行ってみたい 自分で自分の力がためしたい 偉い人になりたい] B --> D[末吉船は2倍の利益があった] B --> E[船主は莫大な利益があった] C --> F[日本人で日本町も作って生活した] C --> G[山田長政のように異国で王になった人もいる] D --> H[武士や商人や職人が多く活躍した] E --> H F --> H G --> H </pre>	<p>TK4 1 金もうけ 2 好奇心 3 自分の力をためす F34 名をあげたい 5 日本ではうだつがあらない 6 自由がほしい 7 キリスト教が禁止されたから 8 日本では職がない</p> <p>○この中から2つ重要だと思うものからキーをおす</p> <p>資料3 「日本人のようす」文庫</p> <p>資料4 「山田長政」の文庫</p>
<p>3 その頃の日本人の心意気について</p>	10'	<p>きけん航海をのりこえて、海外へ発展した人たちは、大きな希望に燃えて、活躍したのだ</p>	<p>TK5 1 武士 F32 商人 3 職人 F24 農民 5 キリスト教徒 6 文化人</p>

教禁止や、身分制度で自由がないからだ、まだ学習がなされていないために追求できず、数人の児童が先行学習で発言しているが学級の大勢にならなかったのは残念であった。

(TK5)

最後に実施したのが、どんな身分の人達が海外へ多く出かけたのか。に話題が集中した。武士は12人と33%、商人が14人で39%、あとキリスト教徒に職人ということになり結論の出ないままに本時の学習を終えた。

(3) 学習後の評価

単元の単習を全部終わり、2週間後の11月5日に実施したのが次の評価である。事前調査と比較するため、また、テンキーを使用している学習中のデータと比較するために、問題は最初のものそのまま使用した。

- ①日本人が海外に進出したのは何時代で何年前までであったか。

これに対して、室町時代の終わりから江戸時代のはじめまでが89%と予想をはるかに上まわる結果が出た。何年前までは300年が74%と時代よりも不正確な答えが多く出たが、このような数字にまで多くの期待は無理であろう。

- ②朱印船の活躍した地域はどの方面でしたか。

東南アジア・南方が88%で第1位、あとは中国、朝鮮と4人が答えている。

- ③日本での朱印船の主な基地はどこだったでしょう。

長崎・堺63.3%、堺・長崎22.1%、平均5%

- ④日本から輸出したものはどんなものでしょう。

金・銀・銅・いおうと正確に答えたもの62%、輸出と輸入の混乱しているもの31.6%とふるわなかった。

- ⑤日本が輸入したものはどんなものでしょう。

生糸・皮・鉄砲・火薬・雑貨の順で3つ以上答えたものが74.6%、2つ以上が16.3%と輸出よりも定着の度合いは大きかった。

- ⑥日本町で知っている町の名はどこですかいくつでもあげなさい。

シャム32人、マニラ31人、アユチア5人、マカオ5人

- ⑦日本町で活躍した人はどんな人たちだったでしょう。

商人29人 武士22人、キリスト教徒18人 学習中のデータをこの3者が大きく上まわり、事実に近いことになる。実際に日本町を形成し活躍したのは貿易商人とキリシタンが中心であったことを考えると江戸時代の学習中鎖国の学習後に訂正する必要がある。

(4) 観察者による評価

(ア) 授業協力者の評価

個々の児童に問題意識が明確になっていることを確認したうえでスタートした授業であった。そこで、我々は、それぞれの児童が、どのように問題解決をはかっていったのかを明らかにするため、授業記録の中から児童のおもな思考の流れをチェック・アウトすることによって、解決の過程を分析してみたい。

児童が主体的に活躍し、個々の児童の考えが大いに生かされた授業であったが、やや考えさせられた点について少し述べてみたい。

一番の問題は、教師と児童との間に、課題の受けとめ方にズレがあった事ではないだろうか。これは、この図の児童の課題解決の過程をたどれば、はっきりとわかる。

まず、児童は、どんなタイプの人間が海外発展をしたのかで、28分間にわたって対立の場が続いている。教師の意図は、どんな目的で……をねらっているのに、児童の方は、あっさりと、金もうけのためとかたずけてしまい、どんなタイプの人間かで討議が活発に行なわれている。しかし、28分間のうち14分間は、夢を持った人とか、えらくなりたいために……とか、予想の発表が自由になってからは、徐々に質の高い発言が見られるようになっている。また、児童の方から「自由」という発言もあり、教師も「自由

課題解決の過程

教師のおもな働きかけ	児童のおもな思考の流れと課題解決のようす
<p>1.2本時の問題を確認し予想を座席順に発表させる</p> <div data-bbox="118 846 436 1107" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「みんなはどんなタイプの人と…話しを進めているか横山さんはね。いいかな。身分が高いとか、武士であるとか、商人、町人といっているのだが、考えなければ…」と、方向転換をはかろうとするが児童はどんなタイプの間か固執する</p> </div> <p>自由に予想を発表させる</p> <div data-bbox="118 1238 436 1335" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>だんだん、海外進出の目的がはじめ発言の質が高かまってくる</p> </div>	<div data-bbox="508 388 723 490" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>気の強い人たちが「うまくもうけてやるぞ。」という気持ちで出かけた</p> </div> <div data-bbox="784 388 959 517" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>気の弱い人たちは「不安だな。でもなんとかしてやろう。」という気持ちでいった</p> </div> <div data-bbox="1005 388 1210 490" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どんなタイプの間かで対立がずっと続く</p> </div> <div data-bbox="731 542 1022 736" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>お金のためなら気の弱い人も出かけたと思う</p> <p>「沈没するんじゃないかな」と思っ て行かなかった人が多いと思 う</p> </div> <div data-bbox="888 774 1022 877" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>お金より自分の命がたいせつでいいかな と思う</p> </div> <div data-bbox="1022 909 1197 1064" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>商人や身分の高い人や職人が金もうけ できるかな。出世できるかな。 な。と思っ て出かけた</p> </div> <div data-bbox="1130 1083 1177 1108" style="text-align: right;"> <p>stop</p> </div> <div data-bbox="508 1045 723 1147" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「〇〇できるかな」ぐらいの気持ちでは、行けない。やっぱり気の強い人だ</p> </div> <div data-bbox="508 1186 723 1238" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>気が強く夢を持った人が出かけたと思う</p> </div> <div data-bbox="508 1271 723 1373" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>金持ちになりたい。外国と貿易してガッポリかせぎたいという夢を持った人たち</p> </div> <div data-bbox="508 1412 723 1566" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>浪人なんか自分はいへんえらくなっ て一生一代の大仕事をしてやるんだという人が「夢の船」に乗って出かけたと思う</p> </div> <div data-bbox="713 1605 888 1760" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>気の弱い人でも船にちぢこまってこわそうにしているけど、金のためならなんでもするし、もうけようと</p> </div>

「自由か……」とつぶやく
が児童の反応は少ない

日本はこの時代は、身分がすごく区別されていて、自分はきまりきった生活しかできないので自分の好きなようにというか、なんか自由というか、自分の人生を一回やり直したい気持ちで外国へ行ったと思う

いう気持ちで出かけたと思う

やっぱり自分の命がたいせつで行けない

昔では、あの船はでっかいといわれていたので大きいのを信じて出かけたと思う

太平洋のまん中では針の穴みたい船だから気の弱い人は金もうけより、生きとるほうがいいと思っていかな

身分のとても低い農民が自由になりたくて

stop

検地があって農民は逃げられない。一番おさえられていない商人とか浪人が出かけたのですよ

ここでどんな職業の人たちがいったのかがはっきりする

③実際この時代に生きた人の資料をあげますからその二人の人物がどんな人間だったか考えてください

「河内の豪商末吉孫左衛門」と「山田長政の活躍」の資料をわける

資料をもらって読み始める。だいじな箇所には、アンダラインをひく。意味のわからない語句を質問したりする

やっぱり金もうけや。金もうけのためならなんでもやる人たち

外国と貿易してできるだけ多くの金をもうけてやろうと思って出かけたのだ

すると金もうけですねえ
と考える

ここで、資料が生かされ、
思考の転換が出始める

資料に基づいて自分の考え
をどんどん発表する児童が
ふえる

④ どちらのタイプが多かったと思
うか挙手させる

二人の共通点はなんだろう

かごをかつぐのがいや
だし、日本をすてて、
外国にわたって、金も
うけをしてやろうと
思って出かけたのだ

金もうけ？はい、
ほかに。ちょっと！

資料の「そうだ、日本
をすてて…」のところで、
日本の生活がつか
なくて、自由にできない
から、外国に渡って自
分のすきにやってみた
かったのだ

山田長政はこんな自由
のない日本を逃げだそ
うと思って、自由を求
め、ロマンを求めて外
国へ渡ったんだ

教師のとほけたようなことばに
13人が反応し挙手する

オレといっしょ
や、それについて、
はい。はあーい。 } とさわざだす

ほとんど児童が思考の転換をはかる

勇気があるとかないとかは関
係なく、外国へ行ってえら
くなりたい。
自分のために行ったのだ

末吉孫左衛門みたいなタイプ 8人
山田長政みたいなタイプ 29人

日本ではできないことをしたい

自由が欲しい

自由になりたい

全員が自由を求めて海外へ発展したことをなっとくする

か……」とつぶやくが、ほとんどの児童に受け入れられずある児童が「身分の低い農民が自由になりたくて……」と発言したが、これは、優秀児につぶされてしまう。たとえ、ちがった意見でも、ここで教師は、全員の児童に、その頃の社会背景を想起させたらよかったのに…と思う。この時に教師の助言があれば、発言した児童も救われるし、もっと多くの児童が海外発展の目的を、真剣に考えたのではないだろうか。つまり、教師が資料を与えても、まだ金もうけに固執しており、「金もうけねえ」で、教師の考え込む動作で、初めて思考の変容が始まるのである。ここに来るまでが、約45分。つまり一時限要したことになる。ここからあとの変容ぶりには驚くかぎりである。わずか6分間ぐらいで、全員の思考が「自由になりたい」という心意気にまで達しているのである。

授業が終わる寸前で、ねらいに達した教師の技量には敬意を表したい。しかし、ほんとうに、子どもの心の中に、ことばとしてでなく、実感として心意気がとらえられたらどうか疑問に思う。こう考えてくると、基本的なことだが、学習課題の重要性を改めて知らされたような気がする。

(イ) 野田学級の教育学部学生の評価

授業を見せていただいて気づいたことを列挙すると以下ようになる。

①児童のOHPによる説明がうまい。

TPシートに描かれていた図は、みな個性豊かなものであり、その時代の人間の心情をうまく表現していた。ここにおいては上位、中位、下位の区別は全く見られなかった。

②全員参加の授業である。

授業記録から明らかなように、教師は指名やK.R.を入れても76回しか話されていないが、児童はのべ95人が発言している。

③少々過熱気味である。

全員参加はよいが、次々に発言がとび出る。第2分節は児童が教師の予想を上回る活躍をした、と教師は語られ、それが予定時間を20分

オーバーした原因のひとつといわれる。ここでは、自分の考えをノートなどに書いてはつきりさせるといような冷却期間があってもよいのではなかったかと思われる。

④教師と児童との間にわずかなズレがある。

教師のいう「どんな人」とは「どんな目的をもった人か」を指していたのである。しかし、児童のなかには「どんな気持ちの持ち主」と解した者が何人かいたようである。

⑤「心意気について」の理解という困難なねらいにもかかわらず、教師はあくまで社会科の授業として遂行されている。

⑥資料の読み方、解釈の仕方が訓練されている。

社会科における資料は、理科の実験に相当するものと思われる。それゆえ、資料の解釈だけで、授業の質が規定されることがあろう。このクラスの児童は、資料に基づいて自分の考えを述べていた点に、感心した。それと同時に、社会科における上位、中位、下位の差は資料の読解力に左右されるのではないかと思った。

この点については、上述した④⑤の観点と、また抽出児の観察という点をも絡めて以下考察を進めたい。

まず上位に属するA児について見てゆきたい。上位にいただけあって、資料の読みとり方がうまい。記録にもあるように、重要と思われる箇所には線を引き、ポイントと記入している。また発表をする際には、資料のポイントに基づいて「○○と書いてあるから△△だ」と述べている点が注目される。

しかし、彼女の場合国語的な読みとりの傾向が強いようである。それは、与えられた資料から「山田長政はこういうタイプの人。末吉孫左衛門はこういう気持ちの持ち主」という発言でわかるように、その時代を代表する人物としてではなく、一人の個人としてとらえている。このA児の考えを変容させるために教師は「なぜ、なんのために、外国へ行ったのか」とか、時代の人物傾向を握むための発問として「長政タイ

ブが多かったか、孫左衛門タイプが多かったか。二人の共通点は何か」と問われている。ここに前述したように(④⑤)教師と児童のズレ、またあくまで社会科として授業をされている一面がうかがえよう。それにもかかわらず、彼女の場合、授業終了まで国語的な解釈をしている。その点において変容は見られなかったというほうが妥当であろう。(ただし、一時間の授業のみで、結論をいそぐわけにはいかない。A児の場合、この授業1時間においてという条件のもとにである。)

次に、中位群のB児について。彼の場合、発言というオーバートな行動が1回きりなので、どう変容しているかわからない、というのが本音である。しかも発言が第2分節のものであり資料が与えられていない段階であるため、はっきりしたことがいえない。ただ発言からみる限り、その時代の人々の海外進出の目的について論じていることがわかり、教師のねらいからはずれていないようである。資料に関しては、ポイントと思われる箇所に線を引いたりしているが、他人の発表を聞いてさらに線を引くといったところもみられる。先ほども述べたように、B児の場合はこの程度で変容したかどうかについては明言をさけない。

終りに、下位群に属するC児について記し、さらに資料と個の変容について触れておくことにする。彼の場合、初めから海外進出の目的は何かという視点で授業に臨んでいる。結論を先にいうと、この授業において彼自身は変容しているのである。時間の前半では「金もうけのために行く」と述べているのに対して、資料配布後には「ぼくは少し意見が変わって…略…自分のためには行く」と発言している。これらからもわかるように、彼は海外へ行く目的という限定された対象に対して観点を変えるという変容ぶりである。

ところでC児の場合、初めにTPシートを用いて実にうまく説明していた。ここにその図を載せられないのが残念である。お金で頭がいっ

ぱいの人物を描いてあるシートによる説明はまことにその時代の人物傾向を示すのに適確であった。しかし、配られた資料の読みとりは、不十分といえよう。資料に基づく発言がないことからそれがうかがえる。こう考えるとC児の場合、映像的・視覚的なものの読みとりや、その利用はうまいが、文字メディアはどうも苦手といえるかもしれない。それゆえ文字メディアの読みとり方、解釈がクラスの上・中・下位を決定している一因かもしれないと思われる。

こうなると、個の変容をよい方向へ促すためには、子ども一人ひとりに適した資料を与えるということが必要になってくるであろう。もし今回の資料が文字だけでなく、VTRやスライド、8ミリフィルムなども加わっていたら、多くの子どもに今以上の変容が見られたかもしれない。この学級の教師は、児童の要求にあった資料を一人ひとりに与えられている。そんな教師の熱意に敬意を表するとともに、今後児童が教師に、本や図という印刷物だけでなく、8ミリフィルムやVTRなどの映像メディアを要求するようになることを期待したい。児童一人ひとりの要求にあった資料の提供、それが、個の変容を促す一因となるかもしれないからである。

(5) 授業者による評価 授業について

授業記録をみてもわかるように、本時の授業において、子どもたちは、天下統一の世の中に外国へ出かけていった人々のようすや彼らの気持ちや考え方について、資料をもとに子どもらしい発想でいろいろと考えていたと思う。しかしながら、気の強い人か気の弱い人かという論争にみられるように、本時のねらいとは少しずれた観点で話し合いが行なわれる場面もしばしばみられた。授業者の立場としては、当時の人々の気持ちや考え方を想像させることにより、当時の世の中にみなぎっていたと思われる、夢やロマン、自由への願望といった時代の雰囲気

つかませることにあった。話し合いが進むにつれて授業者の意図に近い発言もみられるようになった。また、資料「山田長政」をあたえたことにより、彼の人物像、業績を通して、当時のイメージをつかむ児童も多くみられ、一応、成果はあったと考えられる。(野田)

実施後の反省

身近な児童の考えが一時限分そのままのっているので最低限どんなことを学習するか全員が理解できていた。「安心だ」と感想を述べる子もいた。

その反面、国語の読解力があるかないかによって読みの深淺が強く、付加すべき用語や考えについては全員の学習参加が認められるが、「考えや意見」の意味と資料の活用を併合したより高度な学習は極く限られた児童の活動におわった。

さらに本時のねらいについて主も情意面に関する心意気は「感想でいいが」の発言に代表されるように思い思いの感想に陥ち入り、社会科学の学習より道徳ないしは読書指導の範疇に入ってしまうようなものが多かった。

このことからマイクロテーチング利用の利点としては

①学習事項や発表内容が一応見直せるので児童は安心して学習に参加できる。

②資料の利用についてもマイクロテーチングより多くのものをこまかく見ていくことができる。

といった点が児童の反省からも窺えた。反面、次のような欠陥があげられる。

①ひとりひとりの関心の差が非常にはっきり目にも見えるため集団思考がやり難い。

②これは学習集団としてはありえないのが当然なのであろうが、可逆性が強い学習過程になりやすい。具体的にいえば8.「山田長政をどう思うか」という進捗の際に「山田長政はどうして海外へいったのか、金もうけが目的か身分をよくしたいのだったか」などと改めて疑問を投げかける子がでてきた。このため思考が混乱

してしまったことなどである。

③社会の学習であるが国語的な追求に興味をもっている児童にはマイクロテーチングの表記にこだわりを見せ、学習興味を失うこともある。

今後に残された問題

マイクロテーチングを模擬授業からでなくもっと教師の指向性をはっきり盛り込んだ形で使うことができないか。

また、授業の中では付加すべき事項や疑問点を整理してから授業を進めるのではなく、ロールプレイング的にマイクロテーチングを活用できないだろうか。そしてより社会科学学習で欠けると言われてきた情意面では読後感的な取り扱いをむしろ積極的に取り入れてみてはどうかと考えている。(花外)

本時の学習を終えて

南蛮貿易と日本町は従来あまり深く取り上げられなかった教材である。扱われたとしても、鎖国を扱う段階でキリスト教と関係づけての学習が殆どあったといってよい。その点、ここでは海外に進出した日本人の立場をいろいろな角度から眺めてみることに主眼をおき、教師は資料の提供はするが、学習過程は児童の主体にゆだねた。6年生の歴史教材として妥当であるのかどうか、また、6年の児童の理解、思考の限界がどこにあるかを見きわめようとしたからに他ならない。振り返って、児童の生き生きとした発言や、論理にかなった話し合いを聞くにつけてもこの教材は当を得たものであり、海外における日本町を歴史的事実の一コマとして児童と共に考えることの意味を大きく見出だしたといつてよい。(屋敷)

6 研究のまとめと反省

新教材ともいえる「南蛮貿易と日本町」をとり上げた今回の授業研究をふり返ると、次の二つのことが特色として浮かび、また研究の成果として確認できるように思える。

(1) 歴史学習の目標設定は、分析的に客観性

を出せる部分と、多分に設計者の教材観に重点がかけられる部分があるということ。これは特に、人間の価値観の多様性及び児童が既有着している情意的な側面の力の多様性が、どうしても歴史の学習では大きな影響を与えざるを得ないということにつながるからである。我々は、今回の実践を通して、小学校の社会科学習全てにも通ずるであろうこの両者の共存性を再確認した。

(2) 児童の思考のすじ道をより明確にするために利用したマイクロテッチングの手法のとり入れが、様々な部分で利用可能だという大きな効果を見つけたこと。子どものノートされたものから、あるいは発言を集約したものから作成される思考のルートマップと違って、わずかな人数で、わずかな時間で、分節ごとの児童の思考のようすが明確にされるこの方法は、今後新教材の子どもの出方を明らかにするためにも、資料・発問の適切さを確かめるためにも、又評価の方法としても大いに利用される部面があることがわかったということである。子どもの思考や認識の変容を、いかにして追跡するかが我々にとっても、大きな問題のひとつであったがこの方法を利用することによって、ある程度可能になった

のではないかと
いえることも
成果のひとつ
である。

また我々は、
一人ひとりの
児童の評価は、
右図のように
とらえること
ができるので
はないかとも
考えた。

(A・ア)
のタイプの子
は、認知・情

意面共に最も望ましいタイプであるが、しかし(A・ウ)のタイプの子も多分にいるわけであるし、逆に(C・ア)のようなタイプの子も現実には存在するわけである。それに、前時の部分を付加して考えると様々なタイプが生み出されるが、この点を客観的な手法で明確にすることができなかったのが残念である。と同時にこれからの我々に課せられた方向ともいえよう。

